
secret letters

K

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

secret letters

【Nコード】

N9273A

【作者名】

K

【あらすじ】

「ママが空になった日にすべては始まったのかもしれない…」あ
る夏の日『咲』に一通の『手紙』が届いた…

0 通目くプロローグ

プロローグ

『キミの中にオレは今でもいますか？

オレの中にはいつでもキミがいます』

最後の手紙。

優しいアナタからの最後の手紙。

私が真っ白なドレスを着るまで

肌身から離さなかった手紙。

そして…

そう

きつと…ずっと…これからも…

始まりは夏の暑さも

ようやく和らいできた頃

…ううん…

もしかしたらもっと前

前の年のすべてが真っ白な季節

私は15才で受験生だった

パパは出世して偉いヒトになった

ママは…私たちをおいて空になった

外は真っ白で

私の中も真っ白で

ママの着物も真っ白だった

白い髪が増えたパパが言った

『咲、2人でがんばろうな…』

『…うん』

そんな約束をした

あの日からだったのかもしれない

とにかく…初めての手紙は

雪の代わりに桜が舞い

淡い色の桜の代わりに

眩しい日差しが降り注ぐ季節に

私の元へ届けられた

『お元気ですか？』

たったそれだけ

淡いブルーの封筒に同じ色の便箋

少し右肩上がりの綺麗な字

何故か私はその手紙を

誰宛なのか

誰からなのかすら

わからない手紙を

大事に机の引き出しにしまった

今にして思えばどうして

いたずらの類ではないか
と疑わなかったのか

でもその時

私は確信していた

『私のために誰かがくれた秘密の手紙』

だからパパには一言も言わず

机の引き出しに入れて

パパが仕事で遅くなった

一人っきりの夜にそっと取り出して

繰り返し繰り返し読んだ

『お元気ですか？』

それが始まり：

1 通目く空色の手紙

私は小田桐 咲。もうすぐ16才。

この春から高校生

私の朝は寝坊助なパパを起こすことから始まる

「パパ！！朝だよ、起きて！！」

「…うー…ん」

「パパってば！！」

「…わかったよう…」

よし、これであと10分もすれば自力で起きてくるだろう

その間に家中のカーテンを開けて

トースターに食パンを放り込む

夕べから作っておいたサラダをお皿によそって食パンが飛び出してくる頃

パパはボサボサのままの髪を

ガシガシ掻きながら起きてくる

「…はよう、咲」

「おはよう」

パパが食卓に着く頃には私の身支度が全部終わっているのがいつものパターン

玄関を出て郵便受けに新聞をとりに行く

…未だに…

ママ宛にダイレクトメールが届く

苦い思いが心臓のあたりから

頭のとっぺんを一気に痺れさせていく

でもそんなのももう慣れた

ゆっくり息を吐いてまた家に戻る

パパには新聞だけを渡して

ダイレクトメールは私の部屋のゴミ箱

そして私は

「いってきまーす!!」

いつものように家を出る

新しい学校と新しい友達

目を向けるもの全てが新鮮で

毎日の発見に心を躍らせて…

…そんなフリをする毎日

ホントは

ちっとも楽しくなんかない

学校だって行きたくない

でも：パパが心配するから

私は今日も笑顔を作って家を出る

ママが空になった日

『2人でがんばろう』って約束したから

いつもの地下鉄駅

顔なじみの駅員さんに挨拶して

ぎゅうぎゅう詰め地下鉄に乗って

息苦しい思いをしながら

更に息苦しい学校へ向かう

「さあきいーおっはよー!!」

「おはよ、優香」

「お願い!! 宿題みせてー!!」

「またあ;;!!?」

一般的な日常

それなりに仲のいい友達と

つまらない授業

教室の窓から見える正門の横の桜が

あの日泣けなかった私の代わりに

静かに静かに泣いてるようにみえた

そして桜はあつと言う間に散って

私の制服は夏仕様になった

そんなある日

「これ…？」

いつもの朝

郵便受けには新聞と…

空色の手紙が入っていた

宛先も送り主も書いていない

ただただ…淡いブルーの封筒

ほんの少し緊張しながら開いてみる

『お元気ですか？』

たったそれだけだった

「…え…これだけ？」

たったそれだけ…

たったそれだけなのに
なんで？

鼓動が速まるのを感じる…

変わらない毎日を過ごしていた私に

空色の手紙が届けられた…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9273a/>

secret letters

2010年12月23日02時24分発行